

『10年後、輝いているのは誰だ』。夢や希望のない未来に発展なし。今日は自分の夢と希望を再認識する日にしよう。そんなコンセプトを掲げ、印刷産業青年連絡協議会（印青連、茂木徳久会長は10月12日、東京都中央区の日本印刷会館で「印青連ドリーム」を開催。若手印刷人ら約80人が参加した。

同イベントは4つの柱で構成。

『ドリームサポーター』と銘打った基調講演を務めるのは、(株)金羊社の浅野健社長。歴史におけるメディア



浅野健社長がエール

「10年後、輝いているのは誰だ!!」

「印青連ドリーム」に80人來場



気鋭の3経営者を招いた「ドリームトーク」

アの変遷と役割をはじめ、これから印刷メディアが社会に対して果たすべき姿、そのために必要な変化の重要性を、同氏の挑戦と失敗の経験にも触れながら言及した。

「80周年を迎えたとき、80年前と今と

で何が変わったのかを考えた。唯一変わっていないのは社名だけで、所在地もお客さまも、設備も社員も全部違った。『だから80年もったのだ』と考えた。それも「変わった」のではない、「変えた」のだ」と説く浅野社長は、変化も段階があると

して「改革（リフォーム）、変革（チェンジ）、革新（イノベーション）」と明示。「四季で示すと、自分と印刷産業はどこに思うか」と問いかけた浅野氏は「金羊社は今、改革を経て変革の中途。まだ収穫を

自分の「夢」を再認識

経験していないから、私は夏の盛りだ。10年後は君たちに任せる。誰が一番ではなく、全員輝いていてくれ」と後輩にエールを送った。

続いて「ドリームトーク」では、(株)協進印刷の江森克治社長、(株)新興ランド社の宮坂次郎専務、(株)篠原紙工の篠原慶丞社長をパネラーに招いたセッションを実施。「仕事を楽しむコツは「夢と壁・壁の乗り越え方」といった題目に、3

ドリームシャッフルも



者はそれぞれ知見や経験を交えつつ持論を展開した。「ドリームシャッフル」ことワールドカフェでは、「10年後何をしたいか」といった議題を全員参加で討議。こうして輪郭が明らかになった自分の夢や目標として書面に記す「ドリームカプセル」を最後に実施。10年後に再び集まり、皆でカプセルを開けようと誓い合って閉会した。

10年後の自分宛に

